



対戦校の投手を想定した打撃練習に励む光星学院ナイン

専大玉名戦へ打撃磨く

光星ナイン、仕上がりが順調

第93回全国高校野球連盟の組み合わせ決定から一夜明けた4日、本県代表の光星学院は、兵庫県西宮市の大阪ガスグラウンドで午前9時から約2時間の対戦相手の専大玉名(熊本県)を想定した練習を行い、本番への意識を高めた。

専大玉名は右サイドスローの主戦江藤、右オーバースローの園道の継投で勝ち上がったチーム。光星学院ナインは2つかり練習したいという仲井監督は現在、試合とオーバースローの日に合わせた追い込み期間として、重いメニューを課している。

初戦は大会6日目の11日。試合まで期間があるが「調整だけでなく、しっかり練習したい」という仲井監督は現在、試合練習後も、球場の外で選手たちに30分ずつ10本を走らせるなど気を緩めることはなく、「振り込み、走り込みはいつも通りやっている。バッティングの調子も計算通り」と仕上がりを確かめていた。

夏の甲子園あす開幕

きょう開会式リハーサル

第93回全国高校野球選手権大会は、49代表校が参加して兵庫県西宮市の甲子園球場で6日に開幕し、15日間の熱戦がスタートする。5日は午前9時から入場行進、選手宣誓などのリハーサルを行う。

入場行進は、前回大会で優勝した興南高(沖縄)が先頭。今大会の出場校が北から南の順番で行進する。選手宣誓は金沢高(石川)の石田翔太主将。

今大会は「がんばろう日本」をスローガンに掲げ、東日本大震災の被災地の復興を支援する大導役を務める。

会と位置付けられている。開会式では、被害の大きかった東北3県の岩手、宮城、福島県代表校以外の野球部員6人が、横断幕を持って行進。阪神大震災から復興した神戸の球児を代表して、兵庫高の山下将司主将が先導役を務める。

主砲田村は「初戦が遠いのでまだ実感が湧かないが、バッティングへの意識の集中はできている」と話した。

練習を終えたナインは同日夕、大阪府吹田市内の宿舎でミーティングを行い、相手校のビデオを見て戦力分析した。(八島佳奈子)

光星学院

甲子園だより

和田祥真左翼手(3年)



1日に大阪入りし「初日は暑いと思つたが慣れてきた」と調子は良好。組み合わせが決まり「相手が明確になつてきたので練習に力が入る」。

宿舎では「30分は湯舟に漬かる」という長風呂派。風呂上がりはストレッチでしっかり体の疲れをほぐしているという。

初戦まで期間があるが「気を抜かず、最後の1アウトを取るまで全力で戦いたい」

(大阪府・守口四中出身、178センチ、79キロ、右投げ右打ち)

暑さに慣れ調子良好

手が明確になつてきたので練習に力が入る。

宿舎では「30分は湯舟に漬かる」という長風呂派。風呂上がりはストレッチでしっかり体の疲れをほぐしているという。

初戦まで期間があるが「気を抜かず、最後の1アウトを取るまで全力で戦いたい」

(大阪府・守口四中出身、178センチ、79キロ、右投げ右打ち)